



高山市バスケットボール協会
理事長
吉村 雅行

東日本復興支援、第67回ぎふ清流国体バスケットボール大会の最終日、成年男子が優勝を決め日本一になった瞬間、思わず目頭が熱くなりました。そして、その時の感動が今でも鮮烈に残っています。私たちの念願であった成年男子の優勝、天皇杯獲得という最高の形をもって幕を下ろすことができました。高山市バスケットボール協会では、日本一の大会運営を目指し4年前の新潟国体から準備を進めてきました。バスケットボールを愛して止まない協会の方々や、協会の活動に対してご理解を下さる方々の力が結集したことで、観客・選手・関係者から、素晴らしい大会だったと協会の組織力に対しても高い評価を頂き、成功裏に終えることができましたこと深く感謝申し上げます。

武田信玄の戦略・戦術を記した軍学書の中にある勝利の礎に『人は城、人は石垣、人は堀…』という名言があります。勝敗を決する決め手は、堅固な城ではなく、人の力である。個人の力や特徴を掴み、彼らの才能を十分に発揮できるような集団を作ることが優勝劣敗を決する決め手である。とありますが、まさに、この国体では、人の力が国体成功への大きな力となり、その力・才能・情熱を十分に発揮できる集団が高山市バスケットボール協会だったのだと感じています。国体は終わりましたが、この国体を契機に、バスケットボールがさらに普及し、選手やチームが全国で活躍してくれること、そして、高山市がバスケットボールの町となることを願って、高山市バスケットボール協会はさらに努力してまいります。

補助役員や審判としても活躍しました



編集後記

ぎふ清流国体では、ある委員会の副委員長をさせていただきました。私の業務は、時間との戦いでした。限られた時間の中で終えなければいけないので、大会期間中は、とても忙しく過ごしていました。同じ委員の人たちはそんな私に対し、「手伝えることはありませんか。」「遅くまでごろうさまです。」と、私に気を配り、よく声をかけてくれました。また、進んで仕事を見つけ、動いてくれました。彼らの存在は心強く、そして、彼らのおかげで滞りなく業務を遂行することもできました。国体があったからこそ、こんな素敵な人たちに会うことができました。大変な面もあった国体ですが、よい経験をさせてくれました。国体に携わった方々のおかげです。みなさん、ありがとうございました。

(j.n)

TABBA
高山市バスケットボール協会
広報誌
2012-12号 (No.007)

<http://tabba.jp>

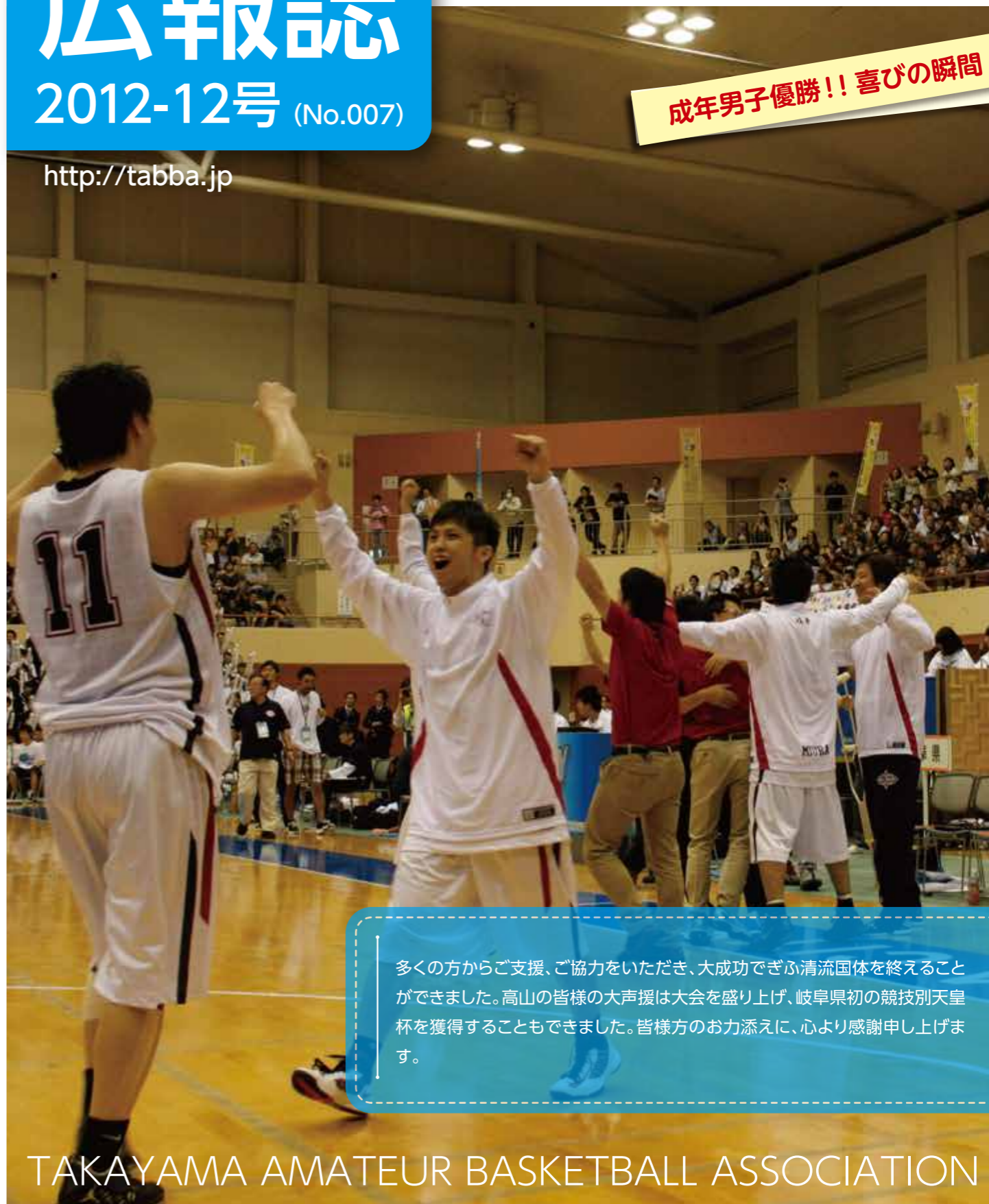
ありがとうございました！

2012
ぎふ清流国体
輝けはばたけたれもが主役
高山市がバスケットボール競技の会場です！
9月29日土～10月3日水

飛騨高山のバスケットボールを盛り上げよう！

編集・発行：高山市バスケットボール協会 広報委員会

成年男子優勝!! 喜びの瞬間!



多くの方からご支援、ご協力をいただき、大成功でぎふ清流国体を終えることができました。高山の皆様の大声援は大会を盛り上げ、岐阜県初の競技別天皇杯を獲得することもできました。皆様方のお力添えに、心より感謝申し上げます。

TAKAYAMA AMATEUR BASKETBALL ASSOCIATION



ぎふ清流国体を終えて



国体成年女子
岐阜県チーム監督
打江 謙二

9月29日(土)久々野町総合体育館にて成年女子1回戦、神奈川県との試合が始まりました。第2QTが終わり7点差で岐阜県リード。第3QTでは一時17点程岐阜がリードしたものの、最終QTに相手の猛攻に遭い78対64で、早々と姿を消すこととなりました。

「4種別を一つの市で受け持つ」こととなり、運営に携われた関係者の方々の労力は計り知れないものであったと思います。また、大会を陰で支えてくれた高校生補助役員の献身的な姿には、感動さえ覚えました。中でも、高山市実行委員会・高山市バスケットボール協会の方々には、本大会を迎えるまでの強化大会の開催、強化合宿の全面的協力、本大会前日までの調整合宿等々、「チーム岐阜」のために常に環境条件を整えていただいたり、我々チームスタッフにも暖かい言葉をかけていただいたりと、本当にお世話になりました。

何としても地元の方々へ結果でお返ししなければと、選手に叱咤激励しながら強化に取り組んできましたが力及ばず申し訳ございませんでした。しかしながら、たくさんの人たちが会場へと足を運んでくださり応援していただいたことで、バスケットボール競技が国体で初めて総合優勝という形で終わられたことに安堵しました。

来年度は東京都で国体が開催されます。こういったすべての感謝と感動を次世代に伝えていくことを肝に銘じたいと思います。ありがとうございました。

国体成年女子
岐阜県チーム選手
水木 佳恵
(日枝中学校出身)

私は約五年間、この『ぎふ清流国体』に向けて練習に取り組んできました。練習を始めた当時は、まだ先のことだと感じていましたが、練習を重ねるにつれ、今回の国体に向けて多くの方が時間を割いて運営に関わってくださっていることや、たくさんの方が応援してくださっていることを知りました。だからこそ私たちは今の環境に感謝をし、全力で練習に取り組み結果を出さなければならないと感じました。

当日は、ほぼ満員の会場に驚き、改めて、地元で国体が行われるということの重みを感じました。

しかし、私たちはみなさんの期待に応えられるような結果を出すことができませんでした。本当に悔しい気持ちと申し訳ない気持ちでいっぱいです。しかし、私たちは温かい声援があったからこそ私たちはコートの中で精一杯プレイすることができました。

今まで国体の運営に携わってくださった多くの皆さんや、私たちの勝利を願って最後まで温かい声援を送り続けてくださった皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の国体での経験を自分の人生に活かしていきたいと思ひます。本当にありがとうございました。



足立選手にインタビュー

(ぎふ清流国体成年男子代表)



アイシンAW所属
足立 尚也
(東山中出身)

Q1

地元高山での国体開催でしたが、どんな気持ちで試合に臨まれていましたか？

絶対に優勝するんだという気持ちと、恩師や家族に恩返しをしたいという気持ちでした。また高山(岐阜)のバスケットを盛り上げたいという気持ちもありました。

Q2

ぎふ清流国体で、印象に残っていることをお聞かせください。

大会期間中はずっとプレッシャーを感じていたこと、しかしそれが会場に来てくれた皆さんの応援で勇気づけられたことです。

Q3

足立選手を目標にして日々練習に取り組んでいる中学生がたくさんいます。足立選手が中学生の時には、どんなことを大切にして練習に取り組んでいましたか？

とにかく無我夢中で部活動に取り組んでバスケットボールをしていました。そして、シュート練習は毎日欠かさず行っていました。

Q4

最後に、足立選手を応援する高山の人たちにメッセージをお願いします。

いつも応援ありがとうございます。
高山市のバスケットボールが少しでも盛り上げられるように、今後も頑張っていきます。

